

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年7月14日

【四半期会計期間】 第45期第3四半期(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

【会社名】 株式会社ほぼ日

【英訳名】 Hobonichi Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 糸井 重里

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田錦町三丁目18番地 ほぼ日神田ビル

【電話番号】 03(5422)3804

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 鈴木 基男

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田錦町三丁目18番地 ほぼ日神田ビル

【電話番号】 03(5422)3804

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 鈴木 基男

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期累計期間	第45期 第3四半期累計期間	第44期
会計期間	自 2021年9月1日 至 2022年5月31日	自 2022年9月1日 至 2023年5月31日	自 2021年9月1日 至 2022年8月31日
売上高 (千円)	4,680,727	5,520,474	5,907,938
経常利益 (千円)	353,527	669,197	290,745
四半期(当期)純利益 (千円)	240,097	460,768	205,708
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	350,087	350,175	350,087
発行済株式総数 (株)	2,320,000	2,320,200	2,320,000
純資産額 (千円)	3,896,233	4,233,818	3,863,568
総資産額 (千円)	4,754,117	5,362,031	5,315,235
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	103.50	198.63	88.68
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	103.45	198.53	88.63
1株当たり配当額 (円)	-	-	45.00
自己資本比率 (%)	82.0	79.0	72.7

回次	第44期 第3四半期会計期間	第45期 第3四半期会計期間
会計期間	自 2022年3月1日 至 2022年5月31日	自 2023年3月1日 至 2023年5月31日
1株当たり四半期純損失() (円)	63.08	74.67

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、持分法を適用すべき重要な関連会社が存在しないため、記載していません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症による事業への影響については、今後も注視していきます。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものです。

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間における当社の経営成績は、次の表のとおりです。

	前第3四半期累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	対前年同期比 (増減額)	対前年同期比 (増減率)
売上高	4,680,727千円	5,520,474千円	839,746千円	17.9%
営業利益	339,719千円	678,977千円	339,257千円	99.9%
経常利益	353,527千円	669,197千円	315,669千円	89.3%
四半期純利益	240,097千円	460,768千円	220,671千円	91.9%

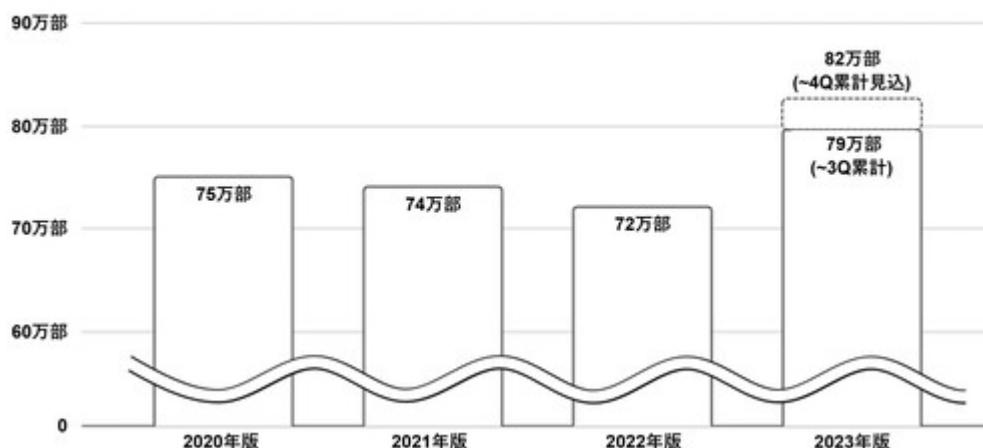
当社は当第3四半期累計期間において、主力商品の『ほぼ日手帳 2023』を例年通り2022年9月1日より、また、4月はじまり版の『ほぼ日手帳2023 spring』を2023年2月1日より販売開始しました。

『ほぼ日手帳』はこれまでも幅広いお客様の手にとってもらえるようにブランド、IPやアーティストとのコラボレーションを実施してきました。当第3四半期累計期間においては「ONE PIECE magazine」とコラボレーションした1日1ページの手帳本体やカバーが大きな反響を呼び、新たなお客様の増加につながりました。今後もより多くのお客様に出会うために多様なコラボレーションを図っていきます。また、欧米でのほぼ日手帳の関心の高まりを受け、ほぼ日手帳関連のコンテンツやSNSの英語対応を強化し、販路を拡大し、手帳本体のカズンおよびweeksサイズの英語版を新たに発売しました。これらの結果、欧米での販売部数は大きく伸長しました。今後も世界各国での販路の拡大や直販ECサイトの言語、通貨、決済手段の対応範囲を広げることでより購入しやすくし、海外売上高の伸長を図っていきます。12月にはより気軽に使用できる商品として企画した、手帳本体とカバーが一体となった張り手帳『ほぼ日手帳 HON』の発売もあり、新型コロナウイルス感染症等の影響で減少していた手帳販売部数は、2023年版手帳では増加に転じ80万部を超える見通しです。

結果として『ほぼ日手帳』全体の売上高は国内外ともに手帳本体・カバーが好調に推移し、前年同期比30.3%増(国内26.6%増、海外34.3%増)となりました。

また、海外売上高の前年同期比は直販売上で32.5%増、卸売上で58.9%増と北中米、ヨーロッパを中心に大きく伸長し、『ほぼ日手帳』における海外売上高の構成比率は49.2%(前年同期比1.5pt増)と上昇しました。

『ほぼ日手帳』販売部数推移



手帳以外の商品については、前年同期比2.0%増となりました。寝具を扱うブランド「ねむれないくまのために」や、AR地球儀「ほぼ日のアースボール」が好調に推移しました。また、4月29日から「生活のたのしみ展」を新宿で開催しました。前回より開催期間を1日増やしたほか、約70の店舗や企画が集まり、販売総額は過去最大となりました。一方で、アパレル関連とMOTHERプロジェクトの売上が減少しました。

その結果、総売上高は5,520,474千円（前年同期比17.9%増）となりました。

売上原価については、『ほぼ日手帳』の売上構成比率が上昇した結果、売上原価率41.3%（前年同期比1.2pt減）となりました。販売費及び一般管理費については、海外直営販路での売上増加及び販売手数料率の引き上げによる販売費用の増加に加えて、国際物流コストの上昇により、物流費用が増加しました。

その結果、当第3四半期累計期間の営業利益は678,977千円（前年同期比99.9%増）、経常利益は669,197千円（前年同期比89.3%増）、四半期純利益は460,768千円（前年同期比91.9%増）となりました。

その他の事業活動としては、動画サービス「ほぼ日の学校」（アプリ及びWEBで提供）では、「人に会おう、話を聞こう。」をコンセプトに、これまでの教育や制度の枠組みにとらわれない新しい学びの「場」をつくることを目指し、有名無名問わず様々なジャンルの講師による授業を配信しています。俳優の中井貴一さんや音楽プロデューサーの亀田誠治さんなど、2023年5月末までに290本以上の動画を公開しました。アプリ及びWEB以外では、生活のたのしみ展連動企画として「ほぼ日の学校特別授業 in 生活のたのしみ展」の公開収録を行いました。6つの特別授業をリアルに体感できる場となり、新たに「ほぼ日の学校」をたくさんの方々に知っていただく機会となりました。また、全日本空輸株式会社（以下ANA）と業務提携し、ANAのお客様への動画コンテンツも引き続き提供しています。ウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」ではZホールディングス シニアストラテジストの安宅和人さんとの対談記事「肉体言語で考えてごらんよ。」が多くの方に読まれました。また、ほぼ日のさまざまな商品を生配信で紹介する「ほぼ日LIVEコマァ〜ス」を開始したほか、LINEアカウントメディアなどの外部媒体でアーカイブの人気記事などの配信をしています。活字以外のメディアでもたくさんの方に楽しんでもらえるよう、オーディオブック「聞く、ほぼ日。」やYouTubeチャンネル「ほぼベリTUBE」など、音声や動画としてのコンテンツ提供にも力を入れています。

渋谷PARCO「ほぼ日曜日」では、美術家の森村泰昌さんの「アートの後始末ができないか」という発想からスタートした「アート・シマツの極意展」を3月中旬から4月中旬まで開催したほか、スタイリストの伊藤まさこさんがプロデュースするコンテンツ「weeksdays」で取り扱ってきた商品の展示・販売会「家のなかのこと」を開催しました。「TOBICHI」ではコマ撮りアニメの魅力を紹介する「HIDARIの続きが見たい！展」を開催しました。

このように、当社は運営する「場」において、生活のたのしみとなるような「いい時間」を過ごしていただけるよう、コンテンツを作り、編集し届けています。業績はこうしたすべての活動の結果だと考えています。

なお、当社は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しています。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年5月31日)	前事業年度末比増減
資産合計	5,315,235千円	5,362,031千円	46,795千円
負債合計	1,451,667千円	1,128,212千円	323,454千円
純資産合計	3,863,568千円	4,233,818千円	370,249千円

(資産の部)

流動資産は、3,934,035千円と前事業年度末に比べて65,723千円の減少となりました。これは主に商品の減少379,077千円、売掛金の減少183,643千円、その他に含まれる未収消費税の減少24,764千円、現金及び預金の増加508,748千円、その他に含まれる前払費用の増加19,093千円によるものです。

有形固定資産は、305,570千円と前事業年度末に比べて28,165千円の減少となりました。これは主に減価償却による減少43,269千円、建物の取得による増加8,936千円、工具、器具及び備品の取得による増加6,168千円によるものです。

無形固定資産は、392,357千円と前事業年度末に比べて74,757千円の増加となりました。これは主に「ほぼ日の学校」などのソフトウェア取得による増加57,621千円、その他に含まれるソフトウェア仮勘定の増加74,872千円、減価償却による減少57,705千円によるものです。

投資その他の資産は、730,067千円と前事業年度末に比べて65,926千円の増加となりました。これは主にその他に含まれる長期前払費用の増加36,398千円と保証金の増加11,200千円によるものです。

(負債の部)

流動負債は、919,558千円と前事業年度末に比べて338,484千円の減少となりました。これは主に買掛金の減少506,715千円、賞与引当金の減少18,431千円、未払法人税等の増加84,680千円、未払消費税等の増加62,818千円、未払金の増加42,235千円によるものです。

固定負債は、208,654千円と前事業年度末に比べて15,029千円の増加となりました。これは主に退職給付引当金の増加9,840千円、その他に含まれる長期未払費用の増加6,952千円によるものです。

(純資産の部)

純資産の部は、4,233,818千円と前事業年度末に比べて370,249千円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加356,382千円、その他有価証券評価差額金の増加13,690千円によるものです。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期累計期間において、当社の優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年5月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年7月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,320,200	2,320,200	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数100株
計	2,320,200	2,320,200		

(注) 提出日現在発行数には、2023年7月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれていません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年3月1日～ 2023年5月31日 (注)	200	2,320,200	88	350,175	88	340,175

(注) 新株予約権(ストックオプション)の行使による増加です。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年2月28日)に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

2023年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,317,400	23,174	
単元未満株式	普通株式 2,300		
発行済株式総数	2,320,000		
総株主の議決権		23,714	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式10株が含まれています。

【自己株式等】

2023年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ほぼ日	東京都千代田区神田錦町 三丁目18番地	300		300	0.01
計		300		300	0.01

(注)当第3四半期会計期間末現在の自己株式数は310株となっています。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第63号)に基づいて作成しています。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(2023年3月1日から2023年5月31日まで)及び第3四半期累計期間(2022年9月1日から2023年5月31日まで)に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けています。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成していません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,618,518	2,127,266
売掛金	764,671	581,028
商品	1,458,500	1,079,423
仕掛品	67,648	73,296
貯蔵品	6,686	-
その他	84,623	73,802
貸倒引当金	891	782
流動資産合計	3,999,758	3,934,035
固定資産		
有形固定資産		
建物	328,901	337,837
工具、器具及び備品	182,946	189,114
その他	9,609	9,609
減価償却累計額	187,721	230,991
有形固定資産合計	333,736	305,570
無形固定資産		
ソフトウェア	261,947	262,432
その他	55,652	129,925
無形固定資産合計	317,600	392,357
投資その他の資産		
投資有価証券	278,331	298,612
その他	385,808	431,454
投資その他の資産合計	664,140	730,067
固定資産合計	1,315,477	1,427,995
資産合計	5,315,235	5,362,031
負債の部		
流動負債		
買掛金	911,242	404,526
未払金	131,408	173,644
賞与引当金	91,355	72,923
未払法人税等	94,428	179,108
未払消費税等	-	62,818
その他	29,607	26,535
流動負債合計	1,258,042	919,558
固定負債		
退職給付引当金	141,953	151,793
資産除去債務	3,975	3,975
その他	47,696	52,885
固定負債合計	193,624	208,654
負債合計	1,451,667	1,128,212
純資産の部		
株主資本		
資本金	350,087	350,175
資本剰余金	340,087	340,175
利益剰余金	3,095,430	3,451,813
自己株式	1,544	1,544
株主資本合計	3,784,059	4,140,619
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	79,508	93,199
評価・換算差額等合計	79,508	93,199
純資産合計	3,863,568	4,233,818
負債純資産合計	5,315,235	5,362,031

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
売上高	4,680,727	5,520,474
売上原価	1,988,278	2,277,723
売上総利益	2,692,449	3,242,750
販売費及び一般管理費	2,352,729	2,563,772
営業利益	339,719	678,977
営業外収益		
受取補償金	4,780	1,002
為替差益	6,539	-
助成金収入	788	-
保険解約返戻金	-	1,446
その他	1,711	1,394
営業外収益合計	13,818	3,843
営業外費用		
為替差損	-	13,454
その他	10	169
営業外費用合計	10	13,623
経常利益	353,527	669,197
税引前四半期純利益	353,527	669,197
法人税、住民税及び事業税	105,500	212,538
法人税等調整額	7,930	4,109
法人税等合計	113,430	208,428
四半期純利益	240,097	460,768

【注記事項】

(会計方針の変更等)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしています。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定につきましては、前事業年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から重要な変更はありません。

(四半期損益計算書関係)

1. 売上高の季節的変動

前第3四半期累計期間(自2021年9月1日至2022年5月31日)及び当第3四半期累計期間(自2022年9月1日至2023年5月31日)

当社は、売上の約6割を占める手帳販売が8月から1月の約6カ月に集中するため、通常、第2四半期累計期間の売上高及び営業費用は、第3四半期以降の売上高及び営業費用と比べ著しく増加する傾向にあります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりです。

	前第3四半期累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
減価償却費	113,011千円	126,178千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年11月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	104,388	45	2021年8月31日	2021年11月22日

2. 基準日が第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が第3四半期会計期間の末日後となるもの該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年11月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	104,386	45	2022年8月31日	2022年11月28日

2. 基準日が第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が第3四半期会計期間の末日後となるもの該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社はウェブメディアと物販を複合的に行う単一のセグメントであるため、セグメント情報については記載を省略しています。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

(商品種類別)

	金額(千円)
手帳	2,609,852
その他商品	1,626,551
その他売上	444,323
顧客との契約から生じる収益	4,680,727

(地域別)

	金額(千円)
日本	3,291,463
北米・中米	635,420
中華圏	470,116
その他海外	283,727
顧客との契約から生じる収益	4,680,727

当第3四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)
(商品種類別)

	金額(千円)
手帳	3,400,170
その他商品	1,658,887
その他売上	461,416
顧客との契約から生じる収益	5,520,474

(地域別)

	金額(千円)
日本	3,566,996
北米・中米	1,152,779
中華圏	406,747
その他海外	393,950
顧客との契約から生じる収益	5,520,474

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第3四半期累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	103円50銭	198円63銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	240,097	460,768
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	240,097	460,768
普通株式の期中平均株式数(株)	2,319,743	2,319,712
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	103円45銭	198円53銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	1,212	1,161
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年7月12日

株式会社ほぼ日
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田村 知弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中瀬 朋子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ほぼ日の2022年9月1日から2023年8月31日までの第45期事業年度の第3四半期会計期間（2023年3月1日から2023年5月31日まで）及び第3四半期累計期間（2022年9月1日から2023年5月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ほぼ日の2023年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。